

令和3(2021)年度

## 大阪府高視研と放送コンテスト委員会の歩み

大阪府高等学校視聴覚教育研究会

### 目次

大阪府高等学校視聴覚教育研究会事業報告 .....	1
大阪府高等学校視聴覚教育研究会役員、異動ならびに会員消息 .....	2
<研修会・講座・講習会>	3
高校生のための放送技術講座	
第1回(映像)※参考：予定されていた内容 .....	3
第2回(中止)※参考：予定されていた内容 .....	4
第3回(芸文祭と併催)付：アンケート結果 .....	5
第4回(オンライン)※参考：予定されていた内容 .....	9
<放送コンテスト関係>	
大阪府高校放送コンテスト大阪大会	
実施報告(課題原稿・審査員一覧含む) .....	11
決勝結果一覧 .....	13
参加状況一覧 .....	14
審査委員長講評(抜粋) .....	15
全国大会結果 .....	18
<芸術文化祭関係>	
第42回大阪府高等学校芸術文化祭 放送文化部門 .....	19
第45回全国高等学校総合文化祭(和歌山大会)放送部門 .....	
第41回近畿高等学校総合文化祭(滋賀大会)放送部門 .....	
<大会および研修会>	
第71回近畿学校視聴覚教育研究大会・第70回近畿放送教育研究大会 .....	21
実践報告：ニュース放送を授業に取り入れる試み	
～現代社会・公共と情報リテラシー～ .....	25
公式サイト等のご紹介 .....	27

## 令和3年度 事業報告

### (1) 総会および研修会

#### ①総会

令和3年 5月25日(水) ※オンライン開催

### (2) 講座および講習会

#### ①高校生のための放送技術講座

第1回 令和3年 4月18日(日)・25日(日) ※WEB方式に変更して実施

第2回 令和3年 8月21日(土)・22日(日) ※新型コロナウイルス感染症拡大のため中止

第3回 令和3年11月 7日(日) 大阪府立今宮工科高等学校 番組部門

第4回 令和4年 1月23日(日)・30日(日) ※オンライン方式に変更して開催

#### ②放送クラブ指導者講習会

令和3年 4月18日(日)・25日(日) ※WEB方式に変更して実施

### (3) 放送コンテスト関係

#### 第68回 NHK杯高校放送コンテスト大阪大会

令和3年 6月 5日(土)・6日(日) 予選 大阪府立西成高校 ※データ審査

令和3年 6月12日(土) 番組部門決勝 たかつガーデン

令和3年 6月13日(日) アナウンス・朗読・研究発表 決勝 相愛高校

## 関連行事

### (1) 大会および研修会

#### ①近畿放送教育研究協議会夏期特別研修会 ※今年度は実施せず

#### ②第70回近畿放送教育研究大会／第25回近畿学校視聴覚教育研究大会 滋賀大会

令和3年11月25日(木) 滋賀県立文化産業交流会館・滋賀県立河瀬高等学校

※WEB方式に変更して実施

#### ③第25回視聴覚教育総合全国大会／第72回放送教育研究会全国大会

令和4年 1月22日(土) ※WEB方式で実施

### (2) 第68回NHK杯全国高校放送コンテスト全国大会

令和3年 7月10日(日)～29日(木) ※すべてデータ審査

### (3) 芸術文化連盟関係

#### ①第45回全国高等学校総合文化祭放送部門

令和3年 8月 4日(水)～ 5日(木) 和歌山県かつらぎ総合文化会館

#### ②第41回近畿高等学校総合文化祭放送部門

令和3年11月13日(土) 滋賀県大津市 ピアザ淡海

#### ③第42回大阪府高等学校総合文化祭放送文化部門 (第46回全総文の選考を兼ねる)

令和3年11月 3日(水) 大阪私学会館

令和3年度 大阪府高等学校視聴覚教育研究会役員

会長	西田 恵二	大阪府立泉北高等学校長
副会長	伊藤 範子	大阪府立桃谷高等学校准校長
	村上 憲文	大阪市立淀商業高等学校長
	西谷 公成	阪南大学高等学校長
会計監査	戸野 佑亮	大阪府立槻の木高等学校首席
	泉 洋一朗	大阪市立泉尾工業高等学校教諭
	大西 篤史	相愛高等学校教諭
書記	久下 哲也	大阪府立池田高等学校教諭
	後藤真沙子	大阪市立中央高等学校教諭
	山中 華	箕面自由学園高等学校教諭
会計	酒井 学	大阪府立堺西高等学校教諭
	佐藤 孝	大阪市立淀商業高等学教諭
	藤田 大輔	阪南大学高等学校教諭

役員異動ならびに会員消息（令和3年4月1日現在）

小畑 敦彦	（大阪府立西成高校）	……………府立西成高校教頭へ
松田 朋子	（大阪府立みどり清朋高校）	……………府立箕面高校へ
佐々木孝夫	（大阪府立摂津高校）	……………ご退職

## 高校生のための放送技術講座（1）

### ●両日ともに中止→WEB方式に変更

- ・NHK杯全国高校放送コンテスト説明・・・役員が動画を作成し配信した。
- ・アナウンス朗読基礎講座・・・安田知博先生による講座の動画を作成し配信した。
- ・番組ドラマ講座・・・役員が動画を作成し配信した。

以下は実施予定だった内容です。

#### [1] 当日の日程

##### ① 18日(日) 番組部門

- 9:30～10:00 午前の部受付
- 10:00～11:00 ドキュメントのための基礎講座
- 11:10～12:30 コンテスト参加のための諸注意（全体+番組編を中心に）
- 13:00～13:30 午後の部受付
- 13:30～16:30 放送技術講座（創作ドラマ/ドキュメント）※ 開閉会式は行いません。

##### ② 25日(日) アナウンス・朗読部門

- 9:30～10:00 午前の部受付
- 10:00～12:00 新入生向けアナウンス・朗読のための基礎講座
- 12:30～13:00 午後の部受付
- 13:00～14:20 コンテスト参加のための諸注意（全体+アナ朗編を中心に）
- 13:00～16:00 放送技術講座（アナウンス/朗読）※ 開閉会式は行いません。

#### [2] 講座内容等について

##### ① 18日(午前)・ドキュメント番組作成のための基礎講座

過去の番組を鑑賞し、作成上のポイントなどを考えます。

- ・第68回NHK杯全国高校放送コンテスト参加に向けての諸注意

6月に行われるNHK杯全国高校放送コンテストに参加するために知っておくべき情報を伝達する講習会です。コンテストへの参加を考えている学校の顧問の先生は必ずご参加ください。（大阪大会要項 p.1参照）この時間は番組の著作権処理や作品の提出方法について重点的に説明します。生徒の参加も可能です。

（18日・25日のどちらにも出席せずにコンテストへ申し込んだ学校に対しては、後日指定した日時に来て別途説明を受けていただくことになります。）

##### （午後）・創作ドラマ放送技術講座

大阪の先生方がドラマ制作について作成上のポイントなどを伝えます。

- ・公開個別相談（ドキュメント）

井村慎介先生を講師に迎え、ドキュメント番組の制作について指導していただきます。事前に番組の構成表まで考える宿題が出ます。

##### ② 25日(午前)・新入生向けアナウンス・朗読のための基礎講座

安田知博先生を講師に迎え、新入生を対象に、放送部活動のアナウンサーに必要な基礎技術や心構えを学びます。日頃の練習のヒントも見つかるはずです。上級生も大歓迎です。参加者はアクセント辞典（各校に1冊。もし、持っていない学校があれば、この機会に購入を勧めます。）と筆記用具を持参してください。

##### （午後）・放送技術講座（アナウンス）

安田知博先生を講師に迎え、コンテストのアナウンス部門に出場する人のための講座です。自作原稿の書き方・読み方の指導はもちろん、話題探しや取材など、アナウンスに必要な要素を網羅します。自作の原稿を当日持参してください。

- ・放送技術講座（朗読）

仲山豊秋先生を講師に迎え、音声表現についての講習の後に公開実技指導をしてもらえる予定です。実技指導を希望する生徒は朗読原稿を2部持参してください。

・第68回NHK杯全国高校放送コンテスト参加に向けての諸注意

6月に行われるNHK杯全国高校放送コンテストに参加するために知っておくべき情報を伝達する講習会です。コンテストへの参加を考えている学校の顧問の先生は必ずご参加ください。（大阪大会要項 p.1参照）この時間は今年変更となった音声データの提出方法について重点的に説明します。（18日・25日のどちらにも出席せずにコンテストへ申し込んだ学校に対しては、後日指定した日時に来て別途説明を受けていただくことになります。）

### [3] 参加申込について

- (1) 参加費 一人一日につき 300円（生徒のみ。当日受付で払ってください。）
- (2) 申込方法 参加申込書を「高視研Webページ」の放送技術講座のページからダウンロードし、電子メールにて申し込んでください。
- ただし、今回は新入部員の入部時期なども考慮し参加人数のみ入力してください。名前の事前登録はありませんが名簿用のExcelシートを各校で印刷の上、当日受付にて提出してください。
- (3) 締め切り ① 18日実施の番組部門 令和3年4月14日(水) 17時  
② 25日実施のアナウンス・朗読部門 令和3年4月21日(水) 17時
- 今回のみ受付確認のFAXは送信しません。

### [4] その他

- (1) **NHK**杯の大阪大会の要項（白本）を必ずお持ちください。当日、全国大会の要項（赤本）をお渡しします。
- (2) 情勢により、形態を変更して実施・中止することがあります。すべての情報は公式Webページで発信しますので、チェックをお願いします。

---

## 高校生のための放送技術講座（2） 実施要項（予定） ●両日ともに中止

以下は実施予定だった内容です。

### [1] 当日の日程

- ① 21日(土) 番組部門
- 14:00～14:30 受付
- 14:30～17:30 ドキュメントに関する講座（顧問講座を含む）※ 開閉会式は行いません。
- ② 22日(日) アナウンス・朗読部門
- 9:20～ 9:45 アナウンスの部受付
- 9:45～11:45 アナウンス講座
- 12:30～14:15 顧問講座（指導法に関する講座）
- 14:15～14:40 朗読の部受付
- 14:40～16:40 朗読講座 ※ 開閉会式は行いません。

### [2] 講座内容等について

- ① 21日 講師 井村慎介氏（関西テレビ放送）
- ドキュメント番組制作に関して、スケジュール設定も含めて必要なこととお話しします。
- 顧問の先生向けにも指導のポイントについてお伝えします。
- ② 22日 講師 仲山豊秋氏（元NHKアナウンサー 元立命館大学教授）
- 9:45～11:45 アナウンス講座（生徒向け）
- 課題文を使った音声表現の指導と、自作原稿を使った公開個人指導を行います
- 12:30～14:15 アナウンス朗読指導法講座（顧問向け）
- 実際の生徒発表の音源を使い、音声表現指導のポイントなどを考えていきます
- 14:40～16:40 朗読講座（生徒向け）
- 課題文を使った音声表現の指導と、自分が抽出した箇所を使った公開個人指導を行います
- ※なお、個人指導を希望する人は、アナウンス講座では自作のニュース原稿、朗読講座では朗読原稿を2部（自分が読むための原稿1部、受付提出用の原稿1部）持参してください。実技指導を希望する人は、申込時にその旨を明記してください。ただし例年希望人数が多く時間が足りません。抽選等で人数を絞らせてい

ただ、場合がありますのでご了承ください。また、自作原稿は、Nコン向けでも総文向けでもかまいません。

### [3] 参加申込について

- (1) 参加費 一人一日につき 300円（生徒のみ。当日受付で払ってください。）  
(2) 申込方法 参加申込書を「高視研Webページ」の放送技術講座のページからダウンロードし、電子メールにて申込んでください。

※22日の講座に関しては、生徒はアナウンスまたは朗読のどちらか一つにしか参加できません。

- (3) 締め切り ① 21日実施の番組部門 令和3年8月16日(月) 17時  
② 22日実施のアナウンス・朗読部門 令和3年8月16日(月) 17時  
8月18日めどに受付確認のFAXを送信します。

### [4] その他

情勢により、形態を変更して実施・中止することがあります。すべての情報は公式Webページで発信しますので、チェックをお願いします。

---

## 高校生のための放送技術講座（3）

（第42回大阪府高等学校芸術文化祭放送文化部門と併催）

### アナウンス・朗読部門

11月3日（水） 15:00～16:00 大阪私学会館

講師 仲山豊秋氏（元NHKアナウンサー 元立命館大学教授）

アナウンス・朗読の発表への講評を中心にお話いただきました。

### 番組制作部門

11月7日（日） 13:00～17:00 大阪府立今宮工科高等学校

ドキュメント 講師 井村慎介氏（関西テレビ放送）

参加15人。制作に関する基本、主にスケジュール建てについて講義をいただきました。

ドラマ 講師 戸野 佑亮先生（府立槻の木高等学校：高視研役員）

参加10人。ドラマの脚本の書き方についてガイダンスを行いました。

### アンケートより

#### <アナウンス朗読>

- ・ コロナ禍でなかなか技術講座が開催されない中、初めて技術講座に参加して、本当にこれからの改善点などがたくさんわかり、すごくためになりました。普段の活動ではなかなか聞けない放送の奥深さを知り、放送が大好きになり、また、最も高みを目指したい、そのために努力しようと思いました。これからは内容や意味をそっくりそのまま鏡にうつせるように練習します。
- ・ 自分では気がつかなくても客観的に見たり聞いたりすると、気がつくことが多いなど感じました。練習の一環として録音して客観的な視点で見ることでより声幅や声遣いについて詰められるんじゃないかなと思いました。
- ・ 声幅を変えるだけで話がすんなり入ってきました。声幅の大切さが分かりました。顔を見ると語りかけに必要な自然な気遣いができるようになるので、伝えることを意識して顔を上げようと思いました。
- ・ 読むのではなく語ると言う事は意識していても、ものにするのは難しいので継続して練習することによってできるようになりたいと思った。
- ・ 声の使い方1つですごく変わって驚いた。誰もが持っている武器は音の三要素、これは本当にそうだなと思った。
- ・ なんとなく発声をして朗読をしていたので、自然に息遣いをすることや、映像に浮かべることが出来るように表現することも大切にしていきたいと思いました。
- ・ 人に伝えるためのアナウンスと呼んでいるだけのアナウンスが全然違って驚きました。前に出た人たちもアドバイスを聞いてすごく変わっていて、どんどん上手になっていてすごいと思いました。

- ・ 今回の技術講座で自身の読みに対して今一度見返す機会となり、改善点が見つかりました。相手と話しているようなまた山も谷もある読み方を主にアナウンスの際に意識していきたいと思いました。朗読を読む際は、聞き手が情景を思い浮かべることができる読みを意識していきたいと思いました。
- ・ 私はどうしても淡々と一定のペースで話してしまう癖があるのですが、「話している人の顔を見ながら話す」と言うのはとても効果がありそうだなと思い、それができるように一生懸命練習するべきだと感じました。
- ・ 今まで自分がどれだけ表現が足りていなかったか実感しました。朗読の演劇は違うと言われたのでなるべく感情は入れないようにしていたのですが、これからはもう少し感情を出して読んでいきたいと思いません。
- ・ 具体的なアドバイスをいただけたので今日から実践してみようと思います。前に出ていた人たちが昔に帰る頃にはすっかり上手になっていて驚きました。
- ・ 毎日練習、声幅広げる、語りかける、自然な息遣い。前に出て読んだ人たちの読みがただ読んでいる状態から語りかけている感じに変わっていてとてもためになりました。
- ・ 広い声幅で話せるようになりたいと思いました。一度何も見ずに人に語りかけるようにやってみようと思いました。音の三要素もできるようになりたいです。頭の中で映像ができるように、それを表現できるようにしたいです。高い音から低い音まで使い切るつもりで次からはアナウンスをしようと思います。
- ・ 自分の語りを映像にする努力をもっとしてみたいと思いました。
- ・ 声のトーンやスピード感など、自分で思っているより変化していなかったのが気がつけて、よかったです。自分で思っているよりも文字を大切に声で表現する大切さを知れてよかったです。前に出る時ものすごく緊張しましたが、鏡に映すように全然できていないのが分かったので、次回はもっと上手に相手に伝わるようにできるといいなと思います。
- ・ 今回の技術講座を踏まえて、自分も含め他の人たちの朗読を思い出すと、1分15秒と言う短い時間の中で情景を思い浮かべることができたのは、ほんの少しだけだったと感じた。声幅を広げると言う事は自分たちも心の中ではわかっていることではあるけれど、意識づらいものだったのだと感じた。しかしこうして例を挙げてもらうと、どれほどまで変わるのか、どのようにして言えばいいのかが具体的に理解できた。喜怒哀楽の表現はそれに相当する音の三要素があり、この決まった要素でないと相手には伝わらない。しかし、このことは自分たち人間が本来意識せずに使っているものであり、自然に話す相手と会話できるように話せば、簡単に技術が向上すると思った。

#### <番組(教員)>

##### ①作品鑑賞と講評(講師:井村先生)

- 作品を見ることができて良かったです。実際にできあがった作品の講評をきくことができ、大変勉強になりました。新しい視点が持てた気がします。
- 取材をして、そこから更に着眼点を見つけて、より深く取材するという流れの重要性が分かります。編集にも時間がかかりますし、取材するのも相手とすり合わせが必要。時間・スケジュールのマネジメントが大切だと感じています。
- 構成を変える具体例を示していただき、理解しやすかったように思います。話されてる内容は基本的なことだったと思いますが、私自身経験も少なく、また生徒も同じような状況なので、とても納得しながら話を聞くことができました。
- 取材のことから、構成・削り方まで、1年生にもよくわかる講義をしていただき、有難うございました。一つ一つ丁寧にお話ししていただいたので、よくわかりました。「しかけ」の話を休んでいる部員にも念押ししたいと思います。
- 実際の作品をみて、制作者の話も交えながらの講評だったため、わかりやすかった。また、井村先生の改善案もあり納得ができた。

##### ②ドキュメント講座(講師:井村先生)

- いつもありがとうございます。構成メモをつくっていましたが、今日の「LAP」を取り入れて「なんとなく5分」の番組を濃いものになりたいと思います。

- 本日、模試や英検等で生徒を連れてこられていないですが、是非生徒に伝えたい内容でした。
- 放送部の顧問になったばかりで、全く知らないことばかりなのですが、この講座を聞かせていただき大変勉強になりました。
- 初心者にとってもわかりやすい内容で、私自身もとても勉強になりました。

### ③ドラマ講座（講師：高視研役員）

- ティーンズビデオが宿題に出ていたが、30分ほど視聴の時間があつた。その時間は生徒に考えさせる時間にあてさせたい。説明時の具体例などがもっとあると良いかと思った。→良い例、悪い例の比較。

#### 2. こんな講座してほしい

- テロップの入れ方、効果的な表示の仕方をネットで調べてみましたが、どれもじっくりこない、というか、「どれでもいい」と言われてしまうことが多く、決め手に欠けています。

#### 3. その他、お気づきの点があればお書きください。

- 以前、兵庫県の学校に勤めていたのですが、大阪の学校との放送部の立ち位置の温度差のようなものは感じていました。大阪の放送部もこれからも盛り上がっていくように頑張りたいと思います。
- 本日もお忙しい中有難うございました。

#### <番組（生徒）>

#### 1. 技術講座についてのご感想などをいただきたく、ご協力お願い致します。

##### ①作品鑑賞と講評（講師：井村先生）

- はじめて参加しましたが、わかりやすい部分も多くて「何をいつまでにやればいいのか」など、とても助かりました。有難うございました。
- 普段、顧問の先生からも聞けないような貴重な話を聞くことができました。放送部に入ったばかりで一から作品をつくったことはありませんが、次のNコンにむけて今から自分で動いていい作品を作れるように頑張ろうと思えました。
- それぞれの作品についての講評だと思いますが、他校の作品でも使えるものすごく勉強になった。
- ドキュメントを作ったことがなくて、作っているところも見たことがないまま、経験のある3年生方も卒部してしまい、いったいどういった点に注目してみればいいのかわかりませんでした。今回の講評で、ナレーションとインタビューだけでは面白くないというのを聞いて、とても納得しました。
- 講師の方と作品をつくった高校の方のやり取りの中でたくさん学ぶことができました。具体的なアドバイス、例えば、番組の中で事実や証拠も入れることとか、専門家の人にインタビューするだけではなくて実際の当事者に話を聞くことの重要性などです。講座が始まる前から学ぶことばかりで、本当に貴重な体験をさせていただきました。
- インタビューをして専門家の話を聞いて終わる構成が、自分に前に作ったドキュメントと同じだったのでとても参考になった。
- 一つ一つの作品を見て、制作者との対話で裏話を聞けたり、自分が思っていた以上の改善点が分かれて良かったと思えました。
- 聞き手を名無しに入り込ませる技術を知れた。インタビューの取り抜き方を今回一番学ばせてもらったと思う。ナレーションの入れ方、文章などがあまりわからなかったのも、アドバイスを聞いて、ナレーションの量・使い方を知れた。箕面高校の作品でナレーションと、インタビューに入る間がなかったと思いました。四天王寺東高校の作品では、テロップが読みにくい、読むスピードがはやすぎて話のスピードもはやくなっており、あまりついていけなかった印象がありました。
- 自分でな悪いところを見つけるだけでどう改善すればよいか、説明できなかったけど、井村さんは的確なアドバイスをされていてとても参考になりました。
- 今年の全総予選に出ていた作品を聞き、自分の講評と井村さんの講評の何が違うのかが知れて面白かったです。
- テレビ・ラジオともに改善した方がよいところの説明がとてもわかりやすかった。さらに池田高校の作品にはタイムコードをつくっていただき、どこがいらないか、どこをもう少し詳しく掘り下げればよいかを教えて池田高校の生徒として有難かった。



- 具体的な改善案を提示してくださったので、大変わかりやすく勉強になりました。
- 正しいこともセメンの認識で正しくないとされてしまうため、専門家だけではなく、自分たちで新たな発見することも必要であり、片方の意見だけではなく、対立する2つの意見の食い違いや取材後にまとめると新たな事実が見つかるということを教えてもらいました。
- とてためになった。プロの視点から様々なアドバイスを聞き、多くのことを学ぶことができた。
- 作品を作る上での必要なポイントを知ることができました。
- 何もわからず不安でしたが、着眼点や納得できることなど基本的なことを知れて、疑問に思うことが自分ではっきりわかりました。
- 聴いている人、見ている人を置いてけぼりにしない、という意見がすごく共感できました。ドキュメントについてすごくわかりやすかったです。
- 自分が思ったこと以外にも、他の着眼点からみた意見が聞けて面白かった。内容のどこを切り取るのかを考えやすいようにする方法が知れて良かった。
- 具体的なアドバイスばかりで、もっと根本的？みたいなのがないとわかりにくかった。
- 最後の作品、タイムテーブルを書き出して、よかったところや話の組み立てを考えるのがすごくわかりやすいと思った。
- 「ホンマ」：SE が少し鬱陶しい。ナレ聞きやすい。細雪は例がいる。「つながりの飴細工」：なぜ飴細工？あめが見えない。 放送に関する様々な情報が聞けて良かったです。
- ドキュメントのネタを考えてから取材に行って、取材の中で自分たちが初めに考えていたネタより面白いものが出てきたらその方向に切り替えていくことも大切なんだと少し驚きました。
- ドキュメントというものを今日初めてしっかりみたので、もし、そういうものをやるときに参考にできたらと思いました。

## ②ドキュメント講座（講師：井村先生）

- スケジュールや企画について教えてもらったのは、わからなかったのでよかった。
- ドキュメントには主人公がいる。ドキュメント等の番組はスケジュール管理大事、など、本当に基礎的なことを学べてよかったです。
- 具体的なこれからやるべきことがはっきりとわかりました。これからどういう目標でやっていけばいいのか、モチベーションも上がり、これから頑張っていきたいと思います。
- スケジュール管理の話がとても参考になりました。
- 日程の組み方など参考になりました。ドキュメントはまだ作ったことがないので、「ラッシュ」を丁寧に作っていこうと思いました。
- 修正の話で、所見・外野の人の意見を取り入れることが大事ということに納得しました。毎回、自分たちの作品に向き合っていると新しいことをする発想がなくなって、どこを修正すればいいのかわからなくなってしまいました。さらに今回の CD 作品鑑賞では聞き手になってみて、こうすればいいのという改善点が見えて学ばせてもらったと思います。
- 自分は入部したばかりなので、右も左もわからなかったのですが、基礎中の基礎から教えていただいたおかげで自信をもって作れそうです。ドラマの講座も受けてみたかったです。
- 企画を探すときに身近な小ネタに注目することが大事だということがよくわかり、今までよりもさらに自分の周囲にアンテナを張って、小さいことでもメモに残そうと思った。自分の高校の作品がやりがち！高校番組あるあるに多く共通していてもっと改善できるんだなと感じた。
- 様々な場面人物の様々な立場を取材すれば、様々な側面を知れ、何か伝える時には経由するルートを作るべきだということを教えてもらいました。

## ③ドラマ講座（講師：高視研役員）

- 漠然としていた台本作りについて具体的なやり方が知れて良かった。自分でたくさん台本を書いてみようと思った。
- ドラマは今まで考えたこともなかったので、基礎から教えてもらえてわかりやすかったです。よくある話だからと書くのをためらわず、考えたことをすすんで書いていこうと思いました。

- ドラマ作成にかかわったことがなかったので、これからドラマを作る時の参考にしたいと思いました。
- ドラマが好きなことをきっかけに講座を受けてみましたが、今まで思っていた「確かに」があったり、8分という短い中での作り方が新たに知れてよかった。ドラマでも、ラジオ・テレビ・短編長編の見方がかわった。
- とにかく、ためしてみることの重要性を説いてやる気につながった。
- あらためて台本をつくらうとして、意識していること、基礎的な自分が意識できていることや、深い話をつくるための技術などを幅広く知れてよかった。
- ドラマに限らず、話を書くときに参考になりそうなことがわかりました。また、アイデアのコツとかは大事にしたいと思いました。

## 2. こんな講座してほしい

- 良い例と良くない例を見比べながら、ここが悪い、ここが良かったなど、色々言ってくれると分かりやすくして良いなと思いました。
- 取材についてのお話があればうれしいです。
- 取材の仕方の講座、自分が取材されてみたくて話がしやすい会話を学びたい。
- 編集について詳しく知りたかったです
- 制作のコツや日程の組み方などをもっと詳しく知りたいです。
- 編集のしかた（テロップの入れ方、音楽の選曲、場面のカット、切り替え）
- ある程度完成した作品にどんなことをすれば良くなるのかが知りたいです。
- カメラカット講座。直接実演などしてもらえると嬉しいです。
- 番組編集のポイント・字幕・テロップの入れ方、フェードイン・BGMなどの編集についての講座
- 文化全体を主軸にして、主人公がいないドキュメントの作り方講座をしてほしいです。
- 校内放送についての講座があれば聞きたいです。
- カメラカットや照明のことなど、撮影技術について教えていただきたいです。
- カメラワークや音の取り方を詳しく知りたいです。
- さらに根本的な基礎知識みたいなものが知りたい。
- 次は技術面の講座楽しみにしています。
- 例文などで調整的なことをする。

## 3. その他、お気づきの点があればお書きください。

- とても参考になりました。本当に有難うございました。
- 大変有意義な時間でした。有難うございました。

## 高校生のための放送技術講座（4）

- 対面形式は中止、オンライン（Zoom）で実施

### <23日番組講座（13人参加）>

ドキュメント講座 講師：井村慎介氏

Zoomによるオンライン講座で、番組制作に関する公開個別相談を行いました。主な相談は、企画の立て方についてでした。他校の相談を聞くことで自分の改善点に繋がりました。

ドラマ講座 収録・編集・撮影等、制作に関する基礎知識について、高視研役員作成の動画を配信しました。

### <30日アナウンス・朗読講座（36人参加）>

アナウンス講座 講師：安田知博氏

Zoomによるオンライン講座でした。公開個人指導で、読みよりも原稿の作り方について指導を受けました。他人の自作原稿のアドバイスを聞くことで自分の改善点に繋がりました。

朗読講座 講師：仲山豊秋先生

Zoomによるオンライン講座でした。公開個人指導で、読みについて改善点を指摘していききました。他人の読みへのアドバイスを聞くことで自分の改善点に繋がりました。

Zoomでの講座運営は、講師・出欠管理&画面共有・進行タイムキーパーの端末3台で行いました。待機室からの許可や名前を書いていない生徒の対応含めて出欠管理が思ったより手間でした。改善点としては、端末は充電器につないで行うこと、講師やスタッフのイヤホン準備、端末間の距離など、改善点が多々ありました。

---

以下は実施予定だった内容です。

[1] 当日の日程

① 23日(日) 番組部門

12:30~12:45 受付

13:00~16:00 ドキュメントに関する講座

ドラマに関する講座

※ 開閉会式は行いません。

② 30日(日) アナウンス・朗読部門

12:30~12:45 受付

13:00~16:00 朗読講座

アナウンス講座

※ 開閉会式は行いません。

[2] 講座内容等について

① 23日 **ドキュメント**: 講師 井村慎介氏 (関西テレビ放送)

第69回NHK杯に向けた番組相談会

コンテストに向け企画書をブラッシュアップして番組制作に弾みをつけることが目的ですが、今後の勉強のために参加したい生徒も歓迎します。

事前課題: ① 公開指導を希望する学校は番組の企画書を事前提出のこと

(締切1/19(水) 提出先: ban@koushiken.jp (今宮工科高校・伴)

※件名は学校名にすること[略称可])

[フォーマットは指定のものを使う(高視研HPよりダウンロード)]

② 前回技術講座(11月)の動画資料を視聴しておくこと(高視研HP参照)

**ドラマ**: 講師 高視研役員 撮影・編集の技術を中心に扱います。

\*引率される先生も、ドキュメントもしくはドラマの講座へのご参加(同席)をお願いいたします。

② 30日 **朗読**: 講師 仲山豊秋氏 (元NHKアナウンサー 元立命館大学教授)

当日用意された例文の読み方を追究することで朗読の基本的なスキルを身につけます。

**アナウンス**: 講師 安田知博氏(放送部インストラクター)

原稿作成におもに焦点を当て、必要なスキルを実践的に学びます。

[過去の自作原稿(NHK杯、芸文祭等特に大会名は問わない)を持っている人は、持参してください]

\*引率される先生も、朗読もしくはアナウンス講座へのご参加(同席)をお願いいたします。

[3] 参加申込について

(1) 参加費 一人一日につき 300円 (生徒のみ。当日受付で払ってください。)

(2) 申込方法 参加申込書を「高視研Webページ」の放送技術講座のページからダウンロードし、電子メールにて申込んでください。

[必ず顧問の先生が申込を行ってください。生徒による申込は受付できません。]

(3) 締め切り ① 23日実施の番組部門 令和4年1月14日(金) 17時

② 30日実施のアナウンス・朗読部門 令和4年1月14日(金) 17時

\*受付確認は送付される電子メールをご確認ください[FAXでは行いません]

[4] その他

情勢により、形態を変更して実施・中止することがあります。

すべての情報は公式Webページで発信しますので、チェックをお願いします。

## 第68回NHK杯全国高校放送コンテスト大阪大会の報告

放送コンテスト委員会

表題の大会を今年度は、いろいろな制約の中行うことができました。それについて、報告をします。

予選	アナウンス・朗読部門	6月5日(土)	データによる非公開審査
	番組部門	6月6日(日)	データによる非公開審査
決勝	番組部門	6月11日(土)	公開審査 会場：たかつガーデン
	アナウンス・朗読部門、研究発表	6月12日(日)	公開審査 会場：相愛高等学校
予選	参加校(エントリー)	41校	アナウンス 40名 朗読 125名 番組 41作品 研究発表 2作品 ここから 24校 37名(作品)が決勝に進出

決勝

### [アナウンス決勝課題]

政府が職場や大学などでの新型コロナウイルスのワクチン接種を可能とする方針を示したことを受けて、近畿大学は学生や教職員など、およそ2万8000人を対象に今月21日の週からキャンパス内で接種をはじめると発表しました。  
新型コロナのワクチンについて政府は今月21日から職場や大学などでの「職域接種」を可能とする方針を明らかにしています。これを受けて近畿大学は、今月21日の週から東大阪市のキャンパス内にある施設でワクチン接種を始めると発表しました。  
対象は、大学生や大学院生2万5000人と教職員3000人のあわせて2万8000人です。  
接種を担う医療従事者は大学側で確保する必要がありますが、医学部や附属病院などで教職員を務める医師や看護師をあてるとのことです。  
近畿大学は、「学生や教職員のワクチンの早期接種を実現し、早い時期での対面授業の全面的な再開を目指したい」としています。

### [朗読決勝課題]

「劇場がのうなつてもたら、なにもでけへん」  
大きな衝撃を受けた天外は、膝をついてうなだれ、表情もなくつぶやいた。  
千栄子は、「今、弱気になったらあかん」と、崩れ落ちそうになる自身の気持ちを叱咤する。  
劇場よりも芝居よりも大切なものがある。先生の命や。先生を絶対に死なせたらあかん。  
うちが守ってみせる。命さえあればきっと  
立ち直ることができる。必ず、できるんや。  
(葉山 由季「大阪のお母さん」一浪花千栄子の生涯—中  
「代役の日々」)

審査員<敬称略>

<番組制作部門>

村山峻平(NHK大阪拠点放送局デスク)、西田恵二(大阪府立泉北高校長:高視研会長)、鎌田 潤(元大阪府高等学校教諭:元放送コンテスト委員長)、酒井 学(大阪府立堺西高校:高視研役員)、中井勝久(大阪夕陽丘学園高校:高視研役員)、伴 慎一(大阪府立今宮工科高校:高視研役員) 姫路裕敏(大阪府立西成高校:高視研役員) 計時・著作権処理確認担当:久下哲也(大阪府立池田高校:高視研役員)、

<アナウンス・朗読部門>

上岡 亮(NHK大阪拠点放送局シニアアナウンサー)、西田恵二(大阪府立泉北高校長:高視研会長)、秋本みゆき(大阪市立高校:高視研役員)、伊藤元也(四天王寺東高校:高視研役員)、鎌田 潤(元放送コンテスト委員長)、田名瀬さゆり(府立桜塚高校:高視研役員)、安田知博(「放送部インストラクター」)  
計時担当:松田朋子(大阪府立箕面高校:高視研役員)

決勝の結果は別表に示します。

今回は2年ぶりのNコンでした。昨年の「大阪府高校放送コンテスト」と単純に比較はできませんが、参加校は増加しました。(昨年度31校)。

朗読へのエントリーはやはり多いです。一昨年の176名からは減少しましたが、100名を超えました。ですが、94名とやはり人気の高さを見せました。番組も昨年よりも多くのエントリーがありました。研究発表のエントリーもありました。

今回の大きな特徴は、「感染拡大防止」の観点から大人数で集まることを避けるため、予選はデータ審査で行いました。決勝は、昨年のようにアナウンス1グループ、朗読を2グループに分け、途中で入れ替えを行うなどの対応をしました。大きな混乱はありませんでした。

運営について、予選では、参加校の顧問の先生方に審査をお願いしました。土曜日に審査を行いました。私学各校は土曜日に授業を行っている学校が多く、「審査員の辞退」が何名かありました。そのため、移動をお願いしたり、集計担当も審査に回るなど余裕のない状態でした。次年度は、予選のアナウンス・朗読と

番組を入れ替えて対応しようと思います。

いずれも、発表者のほかに顧問または付き添いの生徒1名と人数を制限しました。アナウンス・朗読部門では、発表後のマイクやテーブルの消毒をその都度行いました。

結果発表も当日にできました。決勝がライブ開催できたことは生徒たちが生き生きとしていて、運営側として開催ができて本当に良かったです。

今回の運営を振り返り、次回に向けて検討していきたいと思います。

最後に、このコンテストの時ではありませんが、あとの選考会で「顧問が審査・運営に関わる」という文言について、「審査も運営もしたくないので、生徒に『参加を諦めてくれ』と言ってきた。」というお話を聞きました。昨今の「教師はブラック」、「部活はブラック」という風潮と、「部活動は教師の仕事ではない」という言葉をよく聞くようになりました。自分は部活動の顧問をやりたいだったので、この数年は自分の教員生活を全否定されているようで、とても悲しいです。

生徒たちの頑張りを、「先生の仕事じゃないから行くな」とは言えません。これから学校も変わっていかなければならないのですが、これをきっかけに生徒の頑張りを、発表の機会を無くすのもどうなのかなと思っています。

役員は技術講座の企画を立てたり、講師を務めたりしています。

授業が私たち教員の本務ですが、技術講座も同じように生徒や顧問の先生方のニーズに応えられるように努力しているつもりです。決して「自分の学校だけ」ではなく、「大阪全体のレベルアップがしたい」と努力しているつもりです。そのような心ない言葉を聞き、正直残念ではありますが、これが大阪府の高等学校の現実なのかなと思うところもあります。それぞれの学校でいろいろ大変です。筆者の所属する学校でも、「働き方改革」で教員も19時には下校となっています。また「進学実績を上げよ！そのためにはクラブ指導は不要。」という者もあります。しかし、生徒が頑張ろうとしていることに応えるように努力することは、教員の本務だと思います。今後、このようなご意見をお持ちの方は、是非私たちと一緒に企画していただければと思います。

最後は大変失礼いたしました。

(大阪夕陽丘学園高等学校 中井勝久)

## 第68回 NHK杯全国高校放送コンテスト大阪大会決勝 結果一覧

6月12日(土)実施 番組部門

### ラジオドキュメント部門

順位	発表番号	学校名	作品名	入選
1位	3	相愛	ムカデ先生の寄り道人生	入選
2位	4	府立箕面	未来へ繋げる	
3位	2	箕面自由学園	この道	
4位	1	四天王寺	海を越えて	
入選	5	四天王寺	二足の草鞋	

### 創作ラジオドラマ部門

順位	発表番号	学校名	作品名	制作奨励賞
1位	2	府立箕面	瑕が咲く	制作奨励賞
2位	3	府立今宮工科	最後のひとつが無くなった	
3位	2	箕面自由学園	モノクロームスケッチ	
入選	1	浪速	フィードバック	
入選	4	堺リベラル	透明水彩	

### テレビドキュメント部門

順位	発表番号	学校名	作品名
1位	5	相愛	合唱をしたい
2位	2	大阪夕陽丘学園	学習改革時代
3位	3	府立西成	THE THIRD PLACE
4位	4	箕面自由学園	0.5ミリのプレッシャー
入選	5	東海大大阪仰星	吹奏楽部の今、届けたいこと

### 創作テレビドラマ部門

順位	発表番号	学校名	作品名	制作奨励賞
1位	3	箕面自由学園	非合理の極み	制作奨励賞
2位	1	府立箕面	冬とヒマワリ	
3位	5	府立槻の木	リーガルストーカー	
入選	2	常翔学園	イッテツタンリョ	
入選	4	府立旭	つながり	

6月13日(日)実施 アナウンス・朗読部門、研究発表

### アナウンス部門

順位	発表番号	学校名	名 前	学年	入選
1位	3	桃山学院	今 涼香	3年	入選
2位	10	府立箕面	大出 菜々美	3年	
3位	7	プール学院	辻野 結衣	3年	
4位	18	相愛	岩崎 悠花	1年	
5位	2	相愛	橋口 百花	1年	
6位	12	桃山学院	杉原 麗香	2年	
入選	5	府立桜塚	肥田 心菜	3年	
入選	9	相愛	神館 広海	2年	
入選	14	プール学院	粟飯原 優衣	1年	
入選	16	府立箕面	安井 梨乃	2年	

### 朗読部門

順位	発表番号	学校名	名 前	学年	作品番号	優良賞	入選
1位	29	浪速	刀禰 まどか	3年	2	優良賞	入選
2位	25	相愛	辻本 明日美	1年	1		
3位	21	相愛	吉澤 舞友名	3年	2		
4位	30	四天王寺	吉田 真悠	3年	3		
5位	14	大阪信愛学院	大谷 瑚々	3年	3		入選
6位	10	帝塚山学院	和田 乙希	3年	3		入選
入選	3	相愛	中脇 凜	1年	3		
入選	9	大阪夕陽丘学園	三橋 弘夢	3年	3		
入選	22	大阪市立	陳 恬	2年	2		
入選	32	府立三国丘	高岡 悠	3年	2		
入選	34	大阪市立	濱田 柚音	1年	3		

### 研究発表

結果	発表番号	学校名	発表名
研究奨励	1	東海大大阪仰星	お昼の放送 VS ネット動画
入選	2	府立堺西	一期一会がもたらした放送部活動

### 朗読課題は次のとおり

- 1 山本周五郎 「柳橋物語・わかしも今も」
- 2 森下典子 「日々是好日-『お茶』が教えてくれた15のしあわせ」
- 3 荻原 浩 「海の見える理髪店」
- 4 ジェイン・オースティン 「自負と偏見」
- 5 上田秋成 「雨月物語」



## 大阪大会決勝 審査委員長講評（抜粋）

上岡 亮（NHK 大阪拠点放送局シニアアナウンサー） アナウンス・朗読部門

入賞される方と惜しくも入賞を逃す次点の方との差は、実はそれほど点数差はありません。皆さん、実力の差が少ないというか、それぞれいいところ悪いところがあって、大きな差はないというふうに思ってください。これは厳しい言い方かもしれないけども、そのわずかな得点差で、仕方がない、コンテストですから、順番をつけているということでもあります。当然、入賞した人はこれから全国大会でより高いレベルの訓練をして短い期間の間でより良い成績を取めるための短い期間で訓練は必要になってくると思うんですが、決して入賞できなかったからといって、アナウンスメントや朗読の能力が低いとか、ダメと言うわけではありません。僕はNHKに入って今管理職をしているんですが、後輩のアナウンサーとか、スタッフのキャスターとかの採用にも携わっています。それだけに、入賞しなかった生徒さんの中に、正直「あ、このニュースはもう少し訓練すれば本当にNHKの後輩にしたいな」って思うような、男性・女性それぞれ何人かいました。その方は、今回上位入賞者ではなくてもです。ですから、ここで入賞しなかったことを、ダメだったと思わずに、声を出して音声表現をして、こうして訓練している事は後々必ずどこかの場面で役に立つと思うので、自信を持って今の活動を続けていってもらいたいなというふうに思っています。

講評で言いますと、アナウンスメントに関しては、よく聞くことかもしれませんが、今回メモ程度に皆さんのコメントに書いた注意点としては、やはり格助詞を伸ばしてしまう傾向があるんですね。「は」とか「が」とかを。自分のテンポを取るために、どうしても伸ばして調子を取る人が、これはプロのアナウンサーでも多いんですけれども、やはり、下げるところを下げきちんと抑えて読むことが、シンプルだけ難しい。難しいけれどもそれをやらないと、いい放送にはつながらないということで、「は」「が」などの格助詞をしっかりと伸ばさずに抑えるというところは基本中の基本であると思います。

あと朗読に関して言うと、私も朗読は得意ではありません。自信はあったんですが、大阪へ来て、大阪出身の、探偵ナイトスクープなどの放送作家さんでいま作家をされている百田尚樹さんの作品、探偵小説を朗読で、つい去年の夏ぐらいに読んだんですけれども、その時に私よりもさらに先輩の方から指導されて、私50になるんですけれど、この50でも、やっぱり朗読って難しいなって。作品をどう読み解いて、単にきれいに間違えずに読むと言うだけではなく、セリフとそれ以外の部分の違い、わざとらしく変えるわけではなくて、今どういう場面なのか、そしてテレビカメラで言うとうどうい場面が映っているのか、映像が想像できるような間と速さが必要であると、改めて教えられました。今回朗読も聞かせてもらったんですけれども、中にはそれができている人もいましたが、共通して言えるのは、もう少し、きれいに読むだけではなくて、今自分が喋っていることが、映像としてはどういうシーンなのか、会ってるのか、それともちょっと離れた場所からの目線からなのか、そしてこれはまくしたてるように言った方がいいのか、ゆっくりと言ったほうがいいのか、というようなことを、もう少し想像力を働かせて、聞いている人が映像をイメージできるような読み方をすれば、より良い朗読になると思います。具体的に言えなくてすみません。ただ、基本的なヒントとしては、アナウンスと朗読はその2点だと思います。

今皆さんがやっている、声を出すと言う表現の仕方は、昔に比べると非常に、より注目が集まるよう



になりました。最近だとアニメの声優さんなんかは非常に人気のある職業ですし、僕が就職した時よりもさらに今人気が出て、なかなかないという仕事になっています。それから、アナウンサーもそうですし、俳優も声を出す仕事だし。わかりやすい「声を出す仕事」だけではなくて、将来的にはどんな仕事についても、例えばものを売る仕事、営業職についてもですね、自分の思っていることを相手にいかにわかりやすく伝えてものを売るか、良さをアピールしていくかっていうことで、わかりやすい「声を使う仕事」だけじゃなくても、どんな業界のどんな仕事に就いても、自分の思っていることをきちんと相手に伝える、そして自分の声をもって相手に分かってもらうということが、今やっている皆さんの取り組みも必ず大人になったときに何かしらの役に立つので、そういう思いでもって、コンテストで1位2位を取れなかったから…ではなくて、必ず今やっていることが後々に結びついてくるので、そういうつもりでこれからも研鑽を続けてもらえれば、明るい未来が待っているのではないかなと。どの仕事にも、必ず最終的には、声というものは関わってくると思います。

みんな、十分に、このコロナ禍で練習とかできましたか？普段通りできたわけではないですよ。だけど、これからまあ、ワクチンもどんどん接種して行って、患者数も減っては来ているけれども、まだ長く影響が残るかもしれないという中では、これから先、1年生は2年生、2年生は3年生、3年生は高校を卒業して次の進路に行った時にも、色々と制約があることが多くなっていくかもしれないんですけども、自分の目標を達成するために、いろいろな障害というものは様々な場面でいくつになっても出てくるものですから、いまこの時期に、なんでこんなコンテストを、なんで私たちのコンテストの時だけこんな二重も三重も手間がかかることをやらされてと思わずに、むしろそれは、思い出というか、それを乗り越えたからこそ今の自分があるんだと思える今を過ごしているという前向きに捉えて、高校生活を送ってもらいたいなと思っています。

#### 村山峻平(NHK 大阪拠点放送局デスク) 番組部門

皆さん、本当にこの一年、コロナ等々で自分が想像した以上に大変なことがいっぱいあったというふうに思っていますし、私自身もこの百年に一度と言われているこのコロナの中で放送を出してきた身としては、皆さんのお気持ちも分かりつつ、その上で、コロナがあったからできたことも実はあったんじゃないか、今回皆さんの番組を拝見させていただいて、この時代だからこそ作れていることもあると思うので、そのあたり、皆さん色々と複雑な思いはあると思いますが、その先に、前に進んでいる皆さんの勇気を、本当に素晴らしいものだというふうに感じました。本当におつかれさまでした。

10分くらいお話ができるということなので、最初にまず率直にきょう見させていただいた感想というか、僕自身が皆さんの頃にこんな番組は作れていないので、本当に素晴らしいなあと思いつつ、皆さんより高みを目指されていると思いますので、私が15年くらいこの放送業界にいる中で見た実感として、「こういうことがもしできたら」「もうちょっとこういうところを見たかったな」というところを素直にしゃべらせていただこうと思っています。基本的には、私が高校生だった頃の100倍くらい皆さんはできている中で、それ以上、自分がこういうことを表現したいとか、もっとこういうことができたらいいなあっていうことに、何かお手伝いのできればいいなあというふうに思うように、この時間を使っただきたいと思います。

一番最初にすごく思ったのは、まず全体的な話をすると、たぶん「伝えたい」という部分と「相手に伝わる」っていうことのバランスをうまく想像しながら作っていくことが番組を作ることだと思います。「自分が伝えたい」ってことがうまく伝わらないと番組として成立していないと思うので、僕が今日言うアドバイスは、そのバランスのとり方に最終的につながってくるのではないかと思います。

まず講評の前に、ラジオとテレビって何が違うんだろうって思うんです。ふつうに、全然何の正解もないんですよ。(生徒との応答) 百点満点です。ラジオは音の世界で作らなければいけない、テレビではむしろ映像が出るから、より完璧に作り込まなきゃいけない、っていうことをおっしゃった。完璧です。答えとしては、いまの客観的なことで捉えていると正解なんだけど、作り手っていう立ち位置になって考えてみると、僕は、ラジオドラマとかラジオのほうが、表現する可能性がものすごい高いと思うんですよ。たとえば、宇宙のドラマを作りますっていった時に、画で撮ろうと思うとものすごい大変なんですけど、音で宇宙のドラマを作る方がひょっとしたら簡単かもしれないし、こんな表現ができれば宇宙の世界観が伝わるかもとか、宇宙の世界観の中に急に谷川俊太郎さんの詩が入ってくるみたいなこととか、そういうことが実はできるのがラジオの世界です。自分の中で、テレビだと何が伝えられていんだけど逆に何が伝えにくいんだとか、逆にラジオだったらこんなことが伝えられるんだけど、なんかここ難しいなあみたいなの、良いところと悪いところを、作り手っていうことと、逆に聞き手の想像力が膨らむのはどっちなんだろう？みたいなことをキャッチボールしていくっていうのがすごく大事なんじゃないかなと思います。色々皆さん今後とも作品を作られると思うので、まず僕は大きく言うとそういうことを思いながらいつも作っています。

なかなかこんなに、8分くらいの作品をいっきにたっぷり聞ける体験ってなかなかないので、僕自身もいま実はすごく興奮してます。あと15分しかないのがすごく残念なんですけど、ざっと今日聞いたもの、皆さんに見せていただいたもの、感想を述べさせていただきたいと思っています。

( 個別の講評は省略 )

総論としては、最初に言ったんですけど、いままでずっと言っていたんですけど、ドラマは感情の起伏だというふうに思っています。なので、たぶんいちばん大事なのは、設定を早く分からせることと、何を主人公は悩んでいるのかということと、その悩みがどういう相手と、誰かによって、どう喜怒哀楽につながっていったって、最後に彼女は一步踏み出したのかとか、彼はどうなるのかとか、二人でどうするのか、みたいなことにつながるっていう8分を作り出すっていうことに全力投球してほしい。少し設定を丁寧に描きすぎたりしてるところが、すごくもったいない。セリフはそういうふうにしてどんどん伸びていってしまう。切るところは切るといっていうふうにした方がいいんじゃないかなと思いました。

ドキュメンタリーの方は、この場所とか、この時間とか、この人っていう一瞬を捉えた時に、その一瞬から今の時代が見えてくるっていうのがたぶんどキュメントなんです。その一瞬を見せて時代が見えた時に、皆さんがこの番組で何を伝えたいのかっていうのが大事で、だからこの主人公なんだ。と。この「何を伝えたいのか」がブレ始めると、何を撮りたいのか何をしたかったのかって、全部わかんなくなってしまう。皆さん、主人公が先に決まっちゃってる番組があるんじゃないかな。主人公が先にきまっちゃった結果、何を伝えたいかがほとんど分からなくなってしまうところがあると思うので。いっしょに進めていくっていうものだと思うんですけど。そのあたりを意識すると、もっと皆さんいい番組ができるんじゃないかなと思います。

## 第68回NHK杯全国高校放送コンテスト結果

第68回NHK杯全国高校放送コンテスト  
アナウンス部門決勝

	県名	校名	氏名	学年
優勝	埼玉	ウラワタ イチシヨウ 埼玉県立浦和第一女子高等学校	シモサキ ヒナノ 下崎 日菜乃	3
準優勝	広島	ヒロシマイノチ 広島県立広島井口高等学校	ヤマネ ソユナ 山根 想優奈	3
優秀	長崎	イサハヤ 長崎県立諫早高等学校	フシモト マナカ 藤本 愛花	3
優秀	青森	ヒロサキ 青森県立弘前高等学校	ケウサキ 工藤 咲季	3
優良	福岡	カウ 福岡県立田川高等学校	ウチ コハ 宇土 言葉	3
優良	北海道	サッポロアサヒカオカ 市立札幌旭丘高等学校	コマツリン 小松 凜	3
優良	広島	ヒロシマダイカクツククヤマ 広島大学附属福山高等学校	サウミチカ 佐藤 倫香	3
優良	長崎	オオムラ 長崎県立大村高等学校	ナカイ ヒヨリ 永井 陽莉	3
優良	長崎	カスイ 活水高等学校	キタ アイリ 寄田 愛莉	3
優良	北海道	サッポロキタ 北海道札幌北高等学校	アオヤキ コトコ 青柳 琴子	3

第68回NHK杯全国高校放送コンテスト  
朗読部門決勝

	県名	校名	氏名	学年	作品
優勝	青森	アオモリアケノホシ 青森明の星高等学校	ケウコハル 工藤 倭暖	3	2
準優勝	沖縄	カイホウ 沖縄県立開邦高等学校	アラシロ ミサキ 新城 美咲	3	3
優秀	広島	ヒロシマダイカクツククヤマ 広島大学附属福山高等学校	フジイ ミサキ 藤井 実咲	3	1
優秀	鹿児島	カゴシマジュンシンシヨウ 鹿児島純心女子高等学校	カワジ メイ 川路 芽依	3	2
優良	愛媛	サイヒヘイセイ 済美平成中等教育学校	オタ サクラ 小田 さくら	6	2
優良	富山	トヤマチュウブ 富山県立富山中部高等学校	イトウ シュンスケ 伊東 駿佑	3	2
優良	熊本	タイチ 熊本県立第一高等学校	ヤマムラリア 山村 りあ	3	2
優良	大分	オオイトマイツル 大分県立大分舞鶴高等学校	チハラ カスナ 千原 和奈	3	1
優良	広島	ヤスフルイチ 広島県立安古市高等学校	タナカ カルミ 田中 胡桃	3	2
優良	大阪	ナニワ 浪速高等学校	トネ マチカ 刀禰 まどか	3	2

第68回NHK杯全国高校放送コンテスト  
ラジオドキュメント部門決勝

	県名	校名	作品名
優勝	大分	ウサ 大分県立宇佐高等学校	ゴング フォー ユーエスエー Gong for USA
準優勝	鹿児島	ツルマル 鹿児島県立鶴丸高等学校	ニュートラル neutral
優秀	埼玉	ナカウツウコウ 埼玉県立滑川総合高等学校	トキヲカタルシヨウジヨウ 時をかたる賞状
優秀	鹿児島	コクアチウオウ 霧島市立国分中央高等学校	カシカホシ! 彼氏がほしい!

第68回NHK杯全国高校放送コンテスト  
テレビドキュメント部門決勝

	県名	校名	作品名
優勝	静岡	ハママツシツ 浜松市立高等学校	ブカツウノススメ 部活動のすゝめ
準優勝	長野	マツトフカシ 長野県松本深志高等学校	ツナイデ ツナイデ!! つないで つないで!!
優秀	埼玉	ミヤシロ 埼玉県立宮代高等学校	シスカ オヒルニ しずかな おひるに
優秀	広島	クレミツタ 広島県立呉三津田高等学校	ワタシカラアナタヘ 私からあなたへ

第68回NHK杯全国高校放送コンテスト  
創作ラジオドラマ部門決勝

	県名	校名	作品名
優勝	北海道	サッポロタイチ 札幌第一高等学校	ソレデいいの? それでいいの?
準優勝	北海道	サッポロミナミ 北海道札幌南高等学校	アンゼンタルタミ 間然たる民
優秀	宮崎	ハセオカセイウン 宮崎県立延岡星雲高等学校	ホシチカケ 星の近くへ

第68回NHK杯全国高校放送コンテスト  
創作テレビドラマ部門決勝

	県名	校名	作品名
優勝	埼玉	フカヤタイチ 埼玉県立深谷第一高等学校	イツルカ キミニ いつの日か 君に
準優勝	秋田	ユリ 秋田県立由利高等学校	ノーウェアマン NOWHERE MAN
優秀	新潟	ニイガタ 新潟県立新潟高等学校	アシタモタヲホウソウブ。 明日もまた、放送部。

## 芸文祭 報告

(「第42回大阪府高等学校芸術文化祭 放送文化部門」報告)

第42回大阪府高等学校芸術文化祭(以後芸文祭と省略)は、令和4年1月22日の開会行事部門を皮切りに、東大阪サーティーホールや大阪私学会館などを会場として開催されました。

放送文化部門はこれに先駆け、令和3年11月3日(水・祝)大阪私学会館で開催しました。午前中に番組部門とアナウンス部門、午後に朗読部門の審査を行いました。

なお、朗読部門終了後に、当日の発表をふまえたアナウンス・朗読部門の技術講座を実施しました。番組については日を改め、11月7日(日)に技術講座を実施しました。詳細は「第3回高校生のための放送技術講座」のページをご参照ください。

1 日 時 令和3年11月3日(水・祝) 10:00~16:00

09:30 ~ 10:00 アナウンス部門受付

10:00 ~ 10:15 開会式

10:20 ~ 12:30 アナウンス部門公開審査・番組部門非公開審査

13:00 ~ 13:15 朗読部門受付

13:20 ~ 15:00 朗読部門公開審査

15:00 ~ 16:00 技術講座(アナ・朗読部門)

※表彰・閉会式は行わず、結果発表は高視研Webサイト上にて行いました。

2 会 場 大阪私学会館

3 参加数 19校

アナウンス29名 朗読24名 ラジオ番組2作品 テレビ番組3作品

4 結 果 ※は来年度実施の「とうきょう総文2022」へ大阪府代表として推薦

### ■アナウンス部門

優秀賞※ 神館 広海(相愛) 上田 奈々葉(相愛) 安井 梨乃(府立箕面)

奨励賞 大木 彩有伽(浪速) 今田 理子(帝塚山学院) 栗飯原 優衣(プール学院)

橋口 百花(相愛) 杉原 麗香(桃山学院) 多田 和(宣真)

### ■朗読部門

優秀賞※ 山原 優喜(浪速) 辻本 明日美(相愛) 榎本 葵(四天王寺)

奨励賞 榊原 舞星(浪速) 岩崎 悠花(相愛) 中脇 凜(相愛)

三崎 歩菜(府立堺西) 大里 卓也(浪速)

■ラジオ番組部門

優秀賞※ 「ホンマ」(箕面自由学園)

奨励賞 「支援の部」(府立堺西)

■テレビ番組部門

優秀賞※ 「落語で笑顔に」(府立池田) 「繋がりの飴細工」(四天王寺東)

奨励賞 「どこか遠い場所で……」(大阪市立)

以下、準備中です。

**全総文報告**

(「第45回全国高等学校総合文化祭(和歌山大会)放送部門」報告)

**近総文報告**

(「第41回近畿高等学校総合文化祭(滋賀大会)放送部門」報告)

近畿各府県 各市町村教育委員会教育長  
各保育所(園)・幼稚園・こども園長  
各小学校・中学校・高等学校・特別支援学校長  
各所・園・学校放送・視聴覚教育関係者  
各所・園・学校 特別支援教育関係者

令和3年9月吉日

令和3年度

第70回近畿放送教育研究大会滋賀大会

第71回近畿学校視聴覚教育研究大会滋賀大会

二次案内

近畿放送教育研究協議会 会長 十河 秀敏  
近畿学校視聴覚教育連盟会長 会長 伊藤 浩史  
第70回近畿放送教育研究大会  
第71回近畿学校視聴覚教育研究大会滋賀大会  
実行委員長 一ノ宮 賢了

初秋の候、皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。平素より放送・メディア教育の推進につきまして、格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、パンデミックにより日常生活が大きく変化し、デジタルサービスの重要性が一気に高まった2020年でした。そして、本年、教育現場においても、一人一台端末の整備が急ピッチで進められる中、第70回近畿放送教育研究大会・第71回近畿学校視聴覚教育研究大会を滋賀県にて開催することとなりました。

新型コロナウイルスは未だに収束の兆しが見えない状況ですが、この難局だからこそ多くの先生方と視聴覚機器・オンラインを活用した研究を進めていきたいと考え、今年度の大会では現地とオンラインの両方で参加できる“ハイブリッド型”の研究大会を計画しました。ぜひとも多くの先生方にご参加いただき、研修を深めていただきたくご案内申し上げます。

### 研究主題

## “GIGAスクール構想”への挑戦!!

### 合言葉は「まあいっぺんやってみなはれ！」

1. 開催日 令和3年11月25日(木)
2. 主催 全国放送教育研究会連盟 日本学校視聴覚教育連盟  
近畿放送教育研究協議会 近畿学校視聴覚教育連盟  
滋賀県放送教育研究協議会 滋賀県小中学校教育研究会視聴覚部会
3. 共催 NHKサービスセンター NHK天津放送局
4. 後援 内閣府 文部科学省 厚生労働省  
奈良県 大阪府 京都府 兵庫県 和歌山県 滋賀県  
大阪市 堺市 京都市 神戸市 米原市  
奈良県教育委員会 大阪府教育委員会 京都府教育委員会  
兵庫県教育委員会 和歌山県教育委員会 滋賀県教育委員会  
大阪市教育委員会 堺市教育委員会  
京都市教育委員会 神戸市教育委員会 米原市教育委員会
5. 会場 全体会場・幼児  
小学校・特別支援  
中学校  
高等学校

新型コロナウイルスの感染状況を鑑み、

参集型の研究会は中止することとなりました。

各実践をオンライン配信しますので、ぜひご参加ください。



## 6. 日程（現地研修の場合）

※午前中の日程は各部会会場で異なります。

9:00	12:30頃	14:00	14:30	16:00	16:15
受付	ワークショップ/授業・実践交流	昼食休憩・移動	開会行事	講演	閉会行事
各会場			米原市米原学びあいステーション		

### (1) 幼稚園部会(幼稚園・こども園・保育所/園) 《米原市米原学びあいステーション》

会場へ集まったの講義は行いません。

~~研究実践交流部会(11:00-12:30) 2AB室~~ オンライン配信します。ぜひご覧ください。

テーマ	講師	主な内容
未定	未定	※詳細はホームページにてお知らせします。

### (2) 小学校部会・特別支援部会 《米原市立米原小学校》

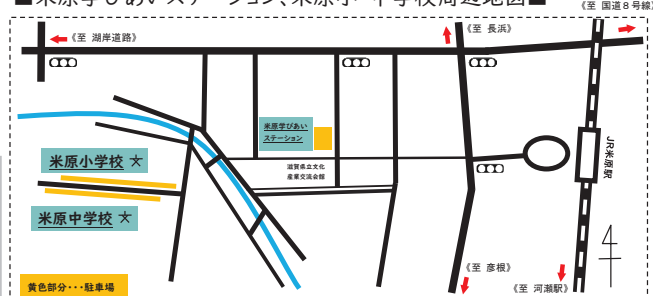
授業公開は行いません。

ホームページにて指導案を公開しますので、ご覧ください。

学年/組	指導者	教科/領域	単元名・題材など	利用番組・メディアなど	教室
2年3組	松村 智太	算数科	かけ算	※学習の進捗状況や新型コロナウイルスの感染状況により、公開する授業内容(教科・単元)が変更になる可能性があります。 授業内容の変更などは、ホームページにて随時更新します。	2年3組
4年2組	宮村 保幸	体育科	器械運動		4年2組
6年2組	長尾 好倫	未定	未定		6年2組
特別支援 なかよし2・5組	吉川 茜 岩崎 美紀	未定	未定		なかよし 2・5組

~~●研究実践交流部会(11:00-12:30)~~  
オンライン配信します。ぜひご覧ください。

■米原学びあいステーション、米原小・中学校周辺地図■



### (3) 中学校部会《米原市立米原中学校》

授業公開は行いません。

ホームページにて指導案を公開しますので、ご覧ください。

学年/組	指導者	教科/領域	単元名・題材など	番利用組・メディアなど	教室
2年A組	中村 俊仁	特別活動	学級活動	NHK for School 「いじめをノックアウト」	2年A組
3年B組	金谷 裕子	国語科	古典	タブレット	3年B組

~~●研究実践交流部会(11:00-12:30)~~ オンライン配信します。ぜひご覧ください。

#### (4) 高等学校部会《滋賀県立河瀬高等学校》

授業公開は行いません。ホームページにて指導案を公開しますので、ご覧ください。

学年	指導者	教科/領域	題材など	利用番組・メディアなど	教室
高1・高2 全クラス	木曜2限 担当教員	当日、受付で 各授業の内容配布		NHK for school利用(理科)	高1・高2 全クラス

●研究実践交流部会(11:00-12:30) ~~オンライン配信します。ぜひご覧ください。~~

#### 7. 校園種別研究実践交流部会

部会	研究主題/利用番組・メディア	提案者	所属校
幼稚園	ぶんちゃん大好き! ~生き物を通して学ぶ子どもたち~	小出 紗有里	和歌山市立宮前幼稚園
	幼児の生活体験を広げ、遊び(学び)を深める放送・情報教育のあり方を考える	大津市立幼稚園視聴覚保育部会	大津市立幼稚園視聴覚保育部会
小学校① 教科	教科の学習で情報活用能力を育成する	豊島 克充	大阪市立友洲小学校分校
	PowerPointを活用した教材研究	岸本 翼	滋賀県彦根市立佐和山小学校
小学校② 生活・総合	一人の百歩より、みんなの一步を ~GIGAスクールを学校に定着させるために~	西本 修明	奈良県桜井市立城島小学校
	児童用タブレットを活用した授業づくり	岡嶋 大輔	滋賀県野洲市立北野小学校
小学校③ メディア	1人1台タブレット端末で「教える場」から「学ぶ場」へ	小林 真子	兵庫県丹波市立東小学校
	Chromebookを利用した授業の工夫	岩岡 伸和	滋賀県守山市立守山小学校
小学校④ 道徳	子どもたちのスタートラインをそろえる道徳科の授業づくりをめざして	小川 辰巳	京都市立御所南小学校
	道徳教育の実践 ~iPadを活用して~	五十嵐 脩人	滋賀県大津市立藤尾小学校
中学校	基本的人権の尊重 ~これからの人権を考える~	古市 典子	大阪市立昭和中学校
	自ら課題を発見し、「主体的に学習に向かう態度」の育成を目指して	澤頭 崇	滋賀県米原市立米原中学校
高等学校	ニュース放送を授業に取り入れる試み ~現代社会・公共~	久下 哲也	大阪府立池田高等学校
	Google Classroom及びBYODによる対話的で主体的な学びの実践	濱川 綾	滋賀県立米原高等学校
特別支援 学校・学級	アイツだけ、ずるい! ~公平ってなんだろう~	森本 亜輝子	和歌山市立宮前小学校
	PowerPointを活用した学習発表会	角田 敦	滋賀県長浜市立長浜北小学校

#### 8. 講演

## 「NHK for School の活用について」

NHK制作局 NHK for School編集部 編集長 大本 秀一 氏



## 10. 参加方法

### ●参加方法① ~~現地研修（公開校での授業参観、実践交流会、全体会へ参加いただけます。）~~

参集型の研究会は中止します。

大会ホームページにて、指導案は公開しますので、ぜひご覧ください。

その際も、下記の『参加申し込み方法』に沿って申し込みをしていただく必要があります。

11月2日（火）までに申し込みをお願いします。（参加は無料です。）

### ●参加方法② オンライン研修（実践交流会、全体会の様子を、動画にて後日研修することができます。）

大会後（約1週間後）から大会ホームページ上に実践交流会・全体会の様子を配信いたします。

- ◆オンライン研修の際もホームページ上からの申込みが必要となります。
- ◆申込み後、メールにて詳細（動画の視聴方法など）をお知らせいたします。

## 11. 参加費 無料

※大会に関する資料は、全て参加者各自でダウンロードや印刷をお願いします。

## 12. ~~交通のご案内~~

◆オンライン申し込みをしていただくと、下記の資料をご覧いただけます。

### ①公開授業の指導案

※ホームページでの掲載が11月25日以降になる可能性があります。

### ②実践交流会の動画、実践報告書

※申し込み後、動画視聴のためのパスワードをお送りします。

必ず11月2日（火）までにお申し込みください。

大会ホームページの「インフォメーション」にて随時、最新情報（変更など）を公開します。  
大会へのオンライン参加をお考えの方は、一度ご確認ください。



↑大会ホームページは  
こちらから

- ・大会情報（随時更新）
- ・資料ダウンロード  
（大会要項、指導案など）
- ・参加申し込み
- ・動画閲覧

## 参加申し込み方法



※11月2日（火）締切

手順① 下記のURL、もしくは右の2次元コードより大会ホームページにお入りください。

<https://audiovisual.jp>（滋賀県放送教育研究協議会ホームページ）

手順② ホームページ上『お問い合わせ・申し込み』に必要事項を記入し送信してください。

（お問い合わせにつきましては、電話もしくはホームページのお問い合わせフォームにてお願いいたします。）



↑大会ホームページの『お問い合わせ・申し込み』より申し込みください。

●お問い合わせ先 東近江市立八日市西小学校 福田淳史（電話）0748-22-3345

## <大会および研修会>

第70回近畿放送教育研究大会・第71回近畿学校視聴覚教育研究大会（滋賀大会）報告  
（大会全体については別紙2次案内をご参照ください）

令和3年度 滋賀大会 研究実践交流会（高等学校部会）発表

### ニュース放送を授業に取り入れる試み ～現代社会・公共と情報リテラシー～

大阪府立池田高等学校 久下 哲也

今年は、コロナ禍と東京五輪、さらにはGIGAスクール導入という波乱の年であり、現行教育課程最後の高校1年生でもある。その1年現代社会を担当するにあたり、次年度からの観点別評価本格導入も視野に入れて、「ニュースを授業に取り入れる」という実践を試みている。

[キーワード] 現代社会、公共、情報リテラシー、ニュース、フェイクニュース

#### 1. 実践のねらい

私は30年以上にわたり、NHK杯全国高校放送コンテストへの参加も含めて、放送部の指導にあたってきた。コンテストにはアナウンス部門や番組制作部門がある。そこでの指導経験を現代社会の授業に活かせたらと考え、今年度の授業の通年テーマを「情報リテラシー」に置くこととした。

情報リテラシー教育の必要性については、現行教育課程・新課程ともに言及されている。また冒頭に述べた昨今の社会状況下、特に重要なスキルだと考えたからである。また、生徒個人に配布されるPC端末の活用にもつながることが期待された。

#### 2. 実践の方法・流れ

コロナ感染防止のためグループ討議等の自粛、また生徒個人へのPC端末配布が2学期という予定を踏まえ、凡そ以下のような通年計画で進めてきた。

##### ■1学期「ニュースを体験する」

毎時間の授業の冒頭に2人ずつ（順序は事前に抽選）実際に報道されたニュースを読み、それを選んだ理由や感想を述べる。ニュースは、NHKホームページの「各地のニュース」から自由に選ばせた（ただし、事前に私に送信させ、内容や他の生徒との重複など最低限のチェック）。コロナ対応のため生徒は自席でニュースを読み、小型スピーカー付き無線マイク（写真）を購入して音量を確保した。

3単位の授業だが、クラス40人が1巡するのに1学期を要した。

##### ■2学期「ニュースの表現について考える」

情報リテラシー教育への視点として、ニュース報道の表現を考えさせようと考えた。

ここでは、フェイクニュースを取り上げた。具体的には、「ウソのような本当のニュース」を探すことと、「フェイクニュースを自作すること」を夏休みの課題とした。提出させたものを組み合わせ



てクイズ形式で提示し、ニュース表現の危うさについて体験し考えさせた（課題提出とクイズ提示は、ネットの活用で作業を効率化した）。

また、東京五輪の開催とコロナ感染拡大をめぐる世論の変化を素材に、同じデータでも表現の仕方  
で違う印象を与えられることも体感させた。

### 3. 実践の結果・考察

生徒の感想は概ね好評であるが、「体験」の域を出ていない意見が多い。授業者としても手探りの面が  
あり、授業の全体像を十分に示せていないことが一因である。3学期に向けて再構築したい。

### 4. 今後に向けて

9月、ようやく配布されたPC端末を使って、生徒自身に取材・撮影から録画・編集などのニュース  
制作を体験させようと計画している。GoogleClassroom を使って限定「放送」も行い、評価し合うとこ  
ろまで進めたいと考えている。

<p>アナウンス部門</p> <p>素材選び・取材・構成・表現（文章・音声）</p> <p>情報リテラシー</p> <p>情報源を主体的に選ぶ力、情報に対する判断力・批判的理解力などの力や、情報通信機器を活用したり、コミュニケーションを創造したりする複合的な能力のこと。（数研出版『改訂版 現代社会』）</p>	<p>1学期 ■ニュースを体験する</p> <p>生徒の感想から</p> <p>テレビでは放送されないようなニュースばかりで選ぶのが楽しかった。</p> <p>取り上げられているほとんどのニュースにコロナの話題が入れ込まれていることに気が付いた。</p> <p>あまり自分で他人が考えた原稿を読む機会がなかったので今回の経験を通してどのようにしたら相手が聞き取りやすいかなど工夫して読むことができた。</p>
<p>2学期 ■ニュースの表現について考える</p> <p>生徒の感想から</p> <p>他の人の作ったフェイクニュースに簡単に騙されたので普段から間違った情報を取り入れてそうで怖かった。</p> <p>こんなに難しく作るのが面倒なのになぜフェイクニュースが出回るのか不思議に思いました。</p> <p>簡単に作ることができたので、たくさんのフェイクニュースが存在している可能性もあると思った。</p>	<p>3学期 ■ニュースを作る</p> <p>1月初までの課題</p> <ul style="list-style-type: none"><li>◆写真や動画を自分で撮影 → ChromeBook端末またはスマホ</li><li>◆アナウンス原稿を自作し録音 → ICレコーダーまたはスマホ</li><li>◆内容は自由</li></ul> <p>Google スライド</p>

大阪府高等学校視聴覚教育研究会「大阪高視研」公式ホームページのご案内

<https://www.koushiken.jp>

NHK 杯全国高校放送コンテストの要項・申込み、及び結果・講評

高校生のための放送技術講座の要項・申込み、及び結果・講評

優秀作品のストリーミング

リンク集（Nコン公式、NHK クリエイティブライブラリ、JASRACなど）

質問メール用フォーム

高視研総会関係 など

発行日	令和4年3月31日
発行所	大阪府高等学校視聴覚教育研究会 事務局：池田市旭丘2丁目2番1号 大阪府立池田高等学校内（電話）072-761-1131
発行責任者	西田 恵 二（大阪府立泉北高等学校校長）
編集委員	久下 哲 也（大阪府立池田高等学校）